

第6章 地域連携

I COC、COC +

1. COC

(1) 概要

COC（シー・オー・シー）とは、2013年度（平成25）から2017年度（平成29）の文部科学省「地（知）の拠点（Center of Community）」整備事業のことで、自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援し、課題解決に資する様々な人材や情報・技術の集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図る目的として実施された。2013年度（平成25）、2014年度（平成26）に全国の各大学等から556件の申請があり、本学を含む77件が採択された。

本学では、地域に役立つ技術者マインド「工学心」を持ち、地域課題を解決できる学生の育成を図る「地域協働型大学」の構築を目指し、教育・研究・社会貢献の観点から全学的に様々な取組を行った。国の補助期間後となる2018年度（平成30）以降も、継続して実施している。

(2) 本学の取組

① 地域協働授業

本学のCOC事業の核となる取組。各年次のカリキュラムに「地域協働科目」が設置され（各教員が任意指定）、学生の大半が在学中に1回から複数回、地域との交流・対話・協働による課題解決への取組を経験する。「教養ゼミ」や「トピックゼミ」といった少人数制ゼミを中心として、県内の様々な地域やテーマに対し、学生が主体的に地域関係者との協働取組を行っている。

② 推進体制

事業を推進する拠点として「地域協働支援室」があり、コーディネーター及びCOC推進の学生団体「地域協働研究会COCOS」（後述）が授業サポートや行政や地域団体等との調整を行っている。事業を推進する予算措置として、主体的な教員や学生に対し活動費・研究費を助成する制度もある。

③ 学生団体「地域協働研究会COCOS」（ココス）

COC推進をサポートする学生団体として2014年（平成26）4月に大学が設置。団体名はCOCのOS（オペレーティングシステム）の意。地域協働授業の教員補助（TA:Teaching Assistant）や、コーディネーターのサポートを行う傍ら、独自に様々な地域関係者と協働プロジェクトを開拓し、名実共に本学COC事業の促進役を担っている。

④ 成果発表会

地域協働授業や学生団体による地域協働活動の成果発表会を、半期ごとに地域関係

者を招いて実施している。企画運営はCOCOSが担当している。

⑤ 情報発信

独自のホームページにて適宜情報発信している。また紙媒体の「COCニュース」も年1、2回発行している。

2. COC+

(1) 概要

COC+（シー・オー・シー・プラス）は、COCの後継として2015年（平成27）から5年間実施された、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力のある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とした事業である。富山県では富山大学が幹事校として採択され、本学を含む県内の7高等教育機関が「All富山COC+」と銘打って協力し、卒業生の県内定着を目指した様々な取組を行った。

(2) 本学の取組

① 未来の地域リーダー育成

COC+参加大学共通で、地域協働科目を履修し、当該科目において優秀な成績（GPAが3.0以上）を収めた学生への認定制度。本学では、認定者のうち、地域課題解決力を養う活動に特に自主的に取り組んだ学生に「上級」の称号を付与している。

② 課題解決型インターンシップ

「課題を見つけ、グループワーク力とともに自ら解決しようとする力を養う」「課題解決に取り組むことで、学生が達成感を持ち、当該企業に愛着を持つ」という2点を目指したインターンシップ。2016年（平成28）～2018年（平成30）に県内企業7社に累計30名の学生が参加した。

③ とやま塾

地域課題について学び、仲間と解決策を探求する2泊3日の合宿型セミナー。2017年（平成29）～2019年（令和元）に、南砺市（利賀村）、朝日町、氷見市の3カ所で、富山大学、富山国際大学の学生と共に累計50名が参加した。